

いいたて学

人から人へ伝わる学び



学校田の稲刈り（令和3年）

今年度も佐藤博さん（二枚橋・須萱）の水田の一部を学校田としてお借りして、前期課程の児童が田植えや稲刈りを体験しました。11月4日には、佐藤さんや作業をお手伝いいただいたボランティアの皆さんを学校に迎えて感謝を伝え、収穫した新米の給食を皆で味わいました。



飯樋町の田植え踊り（平成25年）

避難中の飯館中学校で生まれた「ふるさと学習」。その一環で「飯樋町の田植え踊り」の継承が始まりました。保存会の方々の協力の下、中学生がさまざまな機会に踊りを披露しました。写真は福島市飯野町の古民家で記録映像を撮影した際の1枚です。

令和2年に開校した村立の義務教育学校「いいたて希望の里学園」。豊かな教育環境と、少人数教育の強みを生かして、子ども達の可能性を最大限に引き出しながら、心の教育にも力を入れています。

義務教育期間の9年間をかけて、飯館村ならではの小中一貫教育を行う同校に、「いいたて学」という教科があることをご存知でしょうか。

「いいたて学」は、地域に根ざした実践的な活動を通して、いいたてに学び、情操や自立心を育み、生きる力を養う教科。1年生から9年生までが、「いいたて学」の学びを体系的に進めながら、それぞれ発想力豊かな活動を行っています。

子ども達の学びが新たなページを開いていく「いいたて学」の魅力を、「いいたて学」が生まれたルーツと合わせてお伝えします。

『赤蜻祭』の舞台から 生徒が見つめた『いいたて学』

10月30日に『いいたて希望の里学園』で行われた『いいたてつ子発表会』『赤蜻祭』。7・8・9年生が『いいたて学』の学びについて、発表を行いました。7年生は飯館村の「過去」を、8年生は「現在」を、9年生は「未来」をテーマに、自ら設定した研究課題で学びを深めていました。

「受け取る側から、つなぐ側へ。私達自身が教わり

体験する飯館村の人々の思いを、自分の言葉で語り継ぐ」「そこに存在する思いや願いを受け止め、何をすべきか考えていきたい」。7年生の言葉は真つ直ぐに心に響くものでした。

8年生は、取材した村民を紹介する「いいたて名人図鑑」を制作。寸劇で取材時のやりとりを演じ、人との関わりから得た学びを

9年生は、「いいたて未来地図2030」と題して、「プレイスポット」「カフェ」「特産品」の3つについて具体的な提案を行いました。よりよい未来のために、村にある資源や魅力を生かす。発想の素晴らしさに加えて、イメージを伝える模型やメニューのレシピなども提示して、実現性を印象づけるプレゼンテーションを行いました。



7年生



8年生



9年生



小宮の田植え踊り